

令和6年度事業報告書

1 環境保全に関する交流推進事業

(1) 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の推進

北東アジア地域自治体連合（以下「NEAR」という。）環境分科委員会は、環境保全に関する日本、中国、韓国、モンゴル及びロシアの自治体間の個別プロジェクトの円滑な実施、情報共有等を図り、この地域の環境保全対策を推進することを目的に設置されており、富山県はコーディネート自治体に出選されている。

（公財）環日本海環境協力センター（以下「NPEC」という。）は、北東アジア地域の各国・地域における環境保全の相互対話及び交流の促進を目的として、富山県からその事務局業務を受託している。同委員会の活動を推進するため、参加自治体を対象に7つの個別プロジェクトの実施状況、次年度のプロジェクトの提案等について調査を実施するとともに、調査結果等をまとめた報告資料を作成・配布した。

(2) 海洋環境保全パートナーシップの形成

NPECが環日本海地域等における国際環境協力の中核拠点となることを目指して、「産」、「学」、「官」それぞれの分野の機関、団体の専門家等とのパートナーシップを形成するため、水産海洋学会等の関係学会に参加するとともに、関係機関等の情報収集を行った。

2 環境保全に関する調査研究事業

(1) 漂着物の発生抑制に関する調査・啓発事業

漂着物等の発生抑制対策の必要性を再認識してもらうとともに、その実践を促すことを目的として、富山県から業務を受託し、北東アジア地域の海を共有する自治体、市民等と連携して実施した。

① 市民参加による漂着物の実態把握（NEAR環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

海辺の漂着物調査（マイクロプラスチック調査を含む。）を実施した。

調査時期：秋季

調査回数：1回／年

参加自治体：日本、韓国及びロシアの3か国の11自治体、32海岸

② 漂着物アート制作等の普及啓発活動（NEAR環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

漂着物を利用したアート作品の制作・展示及び造形遊びを次のとおり実施するとともに、漂着物に関するパネル展示、出前授業を行うなど、地域の自治体・団体等と連携した取組みを進めた。

- ・ 漂着物アート作品の制作体験

実施日：[漂着物の収集] 令和6年5月31日、[アート作品の制作] 6月13日

場所：[漂着物の収集] 氷見市松田江浜、[アート作品の制作] 氷見市立窪小学校体育館

参加者：窪小学校4年生68名

- ・ アート作品の展示（上記で制作した作品の展示）

期間：令和6年6月15日～30日

場所：氷見市海浜植物園 2階ワークショップルーム

作品数：12作品

- ・ 漂着物問題を啓発する造形遊び体験

実施日 : 令和6年7月27日

場所 : 松田江浜（氷見市海浜植物園前）

参加者 : 小学生(主に4～6年生)とその保護者34名

体験内容 : 海岸の砂、漂着物等を使った「造形遊び」

(2) 富山湾リモートセンシング調査事業

水産資源を含む多様な生物の生息・生育の場であるとともに、水質浄化、二酸化炭素の吸収・固定等、多面的な機能を有する藻場の衰退が各地から報告されており、その保全を図ることを目的とし、富山湾沿岸域の藻場の分布状況を把握するため、リモートセンシング技術を活用して調査を実施するとともに、関係機関と連携して藻場面積を定量的に評価する技術開発を行った。

空中ドローン撮影 調査時期：令和6年6月20日、10月22日、令和7年3月25日

調査区域：富山県（魚津市及び滑川市の沿岸）

(3) 漂着ごみの定量化技術開発事業

漂着ごみの発生抑制対策や効果的効率的な回収を推進し、海洋環境保全に資することを目的とし、鹿児島大学等と連携して、ウェブカメラ、空中ドローン等を用いて、ごみが多く漂着する富山県射水市六渡寺海岸を広域的、連続的に撮影し、AIによるごみ体積の推計を行った。また、推計したごみ体積を補正するため、撮影場所におけるごみの量や組成について調査を行った。秋以降は漂着したペットボトルの漂流時間を推定するための収集調査を富山県内7海岸で行った。

固定ウェブカメラ撮影 調査時期：通年

空中ドローン撮影 調査時期：令和6年5月19日、6月29日、9月3日、12月20日

ごみの計量 調査時期：令和6年5月19日、6月29日、9月3日

ペットボトルの収集 調査時期：令和6年9月～10月（海辺の漂着物調査と併せて実施）、12月6日、12月20日

調査区域：富山県射水市六渡寺海岸、海老江海岸、氷見市松田江浜、高岡市松太江浜、富山市岩瀬浜、黒部市石田浜、朝日町宮崎・境海岸

(4) 中国遼寧省との環境保全対策協力事業

富山県では、令和6年の友好県省締結40周年を機に、中国遼寧省と覚書を締結し“環境分野での交流協力をさらに深化、また開拓する”こととされた。これを踏まえ、遼寧省及び富山県の環境保全対策を推進することを目的として、プラスチック製品の使用削減、リサイクルの推進に関する事業の実施に向け、遼寧省と内容・スケジュール等の調整を行った。

(5) 観察会を通じた市民参加型生物情報収集システムの検討事業

県民に海洋環境・生物多様性の保全に関する意識啓発を図り、海の学びを促進するとともに、水生生物の分布等に関する長期的なデータ蓄積し、様々な研究等への活用を図るため、船の科学館の「海の学びミュージアムサポート」の助成を受け、富山湾海岸いきもの観察会を実施するとともに、観察会等で得られる生物の情報（観察日時・場所、生物種、分布、写真）を登録・表示するウェブコンテンツ（日本海海岸生物観察結果データライブラリ）を制作した。

- ・ 富山湾海岸いきもの観察会
実施日 : 令和6年7月6日
実施場所: 高岡市雨晴海岸義経岩周辺
参加者 : 小学生とその保護者36名
内容 : 富山湾の海岸に生息する生き物調査

3 環境保全に関する施策支援事業

(1) 広報・普及啓発

海洋環境保全意識のより一層の醸成を図ることを目的に、以下の広報・普及啓発を行った。

① ウェブページ等による情報発信

NPECの活動状況や環境情報について、ウェブページ及びメールマガジンで発信を行った。

② イベント等における情報発信

次のイベントに参加し、NPECの活動状況を広報した。

《主な内容》

No.	イベント等名称	実施日	実施場所等
1	とやま環境フェア2024	令和6年10月12日、13日	テクノホール 西館（富山市）
2	滑川市環境フェア2024	令和6年10月26日	中滑川複合施設メリカ（滑川市）
3	NOWPAP RCU開設20周年記念 シンポジウム	令和7年3月16日	富山国際会議場（富山市）

(2) 北東アジア地域生物季節調査推進事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

気候変動の影響を身近に感じることができる「生物季節調査」（サクラの開花、トンボの初見等）を富山県と連携して推進し、北東アジア地域の各自治体での調査・学習会の実施を通じて、脱炭素社会への移行に係る意識醸成を図った。

- ・ 生物季節調査・学習会の実施

富山県及びロシアハバロフスク地方において各1回実施

【富山県内における調査・学習会】

実施日 : 令和6年12月14日

参加者 : 県民67名

内容 : 地球温暖化の現状及び影響、調査の意義、方法等の説明

(3) 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

北東アジア地域の青少年を対象に、環境問題に関する意見交換、環境保全活動等を通じて、相互の友好と理解を促進し、グローバルな視点で地域の環境保全に取り組む人材を育成することを目的として実施した。

実施日 : 令和6年8月8日、9日

実施方法 : オンライン形式

テーマ : 「地球を大切に: 緑の未来のために力をあわせよう」

参加者 : 北東アジア地域の中高生26名(3か国の5自治体)

(日本: 5名、中国: 5名、ロシア: 16名)

内容 : 環境保全活動の発表、文化交流、リサイクル・アップサイクル作品の制作、環境
宣言文の発表 他

(4) 北東アジア地域環境ポスター展推進事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

北東アジア地域の各自治体が次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を一堂に展示することにより、北東アジア地域における市民の環境保全意識を一層高めることを目的として実施した。

開催期間：令和6年10月12日、13日

開催場所：とやま環境フェア2024会場内（テクノホール 西館）

内容：日本、中国、韓国、モンゴル及びロシアの5か国の8自治体からの優秀作品71点を展示

(5) 国際環境協カインターン・ボランティアプログラム

将来の国際環境協力分野における人材を育成するとともに、大学等の研究機関との連携の強化、北東アジア地域の海洋環境保全に関する取組みへの理解の促進を図ることを目的として、インターンシップ実習生を募集したが、応募はなかった。

4 NOWPAP推進事業

日本、中国、韓国及びロシアは、日本海及び黄海の海洋環境保全を目的として、北西太平洋地域海行動計画（以下「Northwest Pacific Action Plan」（NOWPAP）という。）に基づき各種事業に取り組んでいる。この事業活動の拠点として、各国に地域活動センター（RAC）が指定されており、日本ではNPECが特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター（CEARAC）に指定されている。

令和4年2月からの国際的な政情不安の中で、同年3月に開催が予定されていた第24回NOWPAP政府間会合が延期となったため、令和4年以降の活動計画及び予算が未承認の状況となっている。

NOWPAPの活動を継続するため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて残った、令和2年から令和3年までの予算を用いて、執行期間を令和6年6月まで延長し、CEARACウェブページのリニューアル、ブルーカーボンケーススタディのリーフレットの作成等を行ってきた。

NOWPAPが本格的に再開された際に、CEARACの事業を円滑に再開できるよう、環境省と富山県からの支援を得て、以下の事業を実施した。

(1) 地域活動センター（RAC）事業 NOWPAP 活動推進費

① 日本海等の環境影響調査

- ・ NOWPAP富栄養化状況評価手順書による予備評価の実施

富栄養化の兆候が見られる海域を抽出することを目的とした予備的な評価を継続的に実施し、NOWPAP海域の富栄養化状況評価手法を更に改善するため、人工衛星データからクロロフィルa濃度を推定したほか、欧州宇宙機関が運用する人工衛星Sentinel-3Aに搭載されたセンサ「Ocean and Land Colour Instrument (OLCI)」のデータについて評価のうえ、NASAのアルゴリズム（バージョン 2022.0）を用いて処理し、長期間のモニタリングが可能なクロロフィルa濃度のデータを作成した。

- ・ 富山湾海域モニタリング調査

富山湾の状況を可視化するため、上記予備評価のために収集した富山湾の現場測定データ及びIOPs（固有光学特性）データから、富山湾の透明度マップを試作した。

- ・ リモートセンシングを活用した藻場マッピング

藻場の状況を可視化するための藻場マッピングツールについて、空中ドローンを用いた藻場マッピング手法の精度向上を引き続き行うとともに、藻場マッピングの自動化について検討を行った。

- ・ 海草藻場におけるブルーカーボン変化量の推計
七尾湾において藻場の保全を推進するため、海草藻場面積の季節変動の把握を試み、ブルーカーボンの変化量の推計を行うケーススタディを継続実施した。
- ・ 環日本海海洋環境検討委員会の開催
赤潮／有害藻類の異常繁殖（HAB）をはじめ、リモートセンシング、富栄養化及び生物多様性の環日本海地域の海洋環境に係る課題、今後の活動の進め方等について助言を得るため、国内の専門家による環日本海海洋環境検討委員会を開催した。

開催日：令和7年2月3日

開催方式：オンラインと対面のハイブリッド形式

② 環日本海海洋環境ウォッチ推進費

環日本海海洋環境を可視化するために環境省が設置した「環日本海海洋環境ウォッチシステム」をクラウド環境で運用し、NOWPAP海域における富栄養化状況を情報発信したほか、システムの維持管理を行った。

(2) 地域活動センター（RAC）の運営

① 会議費

CEARACの活動に関連する国際機関等の会議に出席し、CEARACの活動を紹介するとともに今後の連携等について意見交換した。

- ・ 2024世界海草会議（WSC）/第15回国際海草生物学ワークショップ（ISBW）
開催日：令和6年6月17日～21日
開催場所：イタリア ナポリ
参加者：1名
- ・ 東アジア緑辺海循環調査研究（CREAMS）設立30周年シンポジウム
開催日：令和6年7月25日～27日
開催場所：韓国 ソウル
参加者：1名
- ・ 第16回アジア・オセアニア地域地球観測に関する政府間会合（AOGEO）シンポジウム
開催日：令和6年9月3日～5日
開催場所：東京
参加者：1名
- ・ Geo for Good Summit 2024
開催日：令和6年9月23日～26日
開催場所：アイルランド ダブリン
参加者：1名
- ・ 北太平洋海洋科学機関（PICES）年次会合2024
開催日：令和6年10月26日～11月1日
開催場所：アメリカ ホノルル
参加者：1名
- ・ 第12回アジア海色ワークショップ（AWOC）/第21回日韓海色ワークショップ（KJWOC）
開催日：令和6年10月21日～25日
開催場所：インドネシア バリ

参加者 : 1 名

② 調査費

NOWPAP に基づく各種取組みの推進のため、CEARAC 事業に関連する情報の収集・整理を行った。

ア 富栄養化調査

NOWPAP地域の富栄養化状況評価を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

イ 海洋生物多様性調査

CEARACが実施する海洋生物多様性保全のための活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。また、環境DNA学会が環境DNA調査・実験マニュアルを令和6年に改定したことを受け、改訂版の英語版を作成した。

ウ HAB調査

赤潮／HABに関する活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

エ リモートセンシング調査

リモートセンシングに関する活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

オ 海洋ごみ調査

令和6年末に韓国でプラスチック汚染に関する国際条約策定に向けた第5回政府間交渉委員会（INC5）が開催された。本条約の策定は、NOWPAPやCEARACの将来の海洋ごみに関する活動にも大きく関わるため、今後の活動を検討することを目的として、INC5に関する情報収集を行った。

(3) 令和6年能登半島地震に関わる能登半島・富山湾の藻場調査

令和6年能登半島地震による沿岸環境への影響を把握するため、Planet Lab 社（米国）の高解像（50cm 解像度）の SkySat 画像を入手し、地震発生直後の能登半島北西部の沿岸における海岸線の変化を可視化した。海底地形が大きく変化した輪島市皆月湾において、藻場等の状況を観測するため、小型の音響計測機器や空中ドローン、ラジコンボートを活用した簡便な調査方法の検討及び調査機材の開発を行うとともに、データの取得を試みた。

(4) RCU 連携費

NOWPAP地域調整部（RCU）富山事務所を支援した。

令和6年度事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は作成していない。